

令和元年（二〇一九）十一月二十三日（土）「日本学賞」受賞卓話 学士会館

「宮廷儀式研究の歩み」（関係年譜稿）

（京都産業大学名誉教授・モラロジ―研究所教授）所 功

※昭16年（一九四一）12月12日、岐阜県揖斐郡小島村（現在揖斐川町小島）に生る（父久雄・母かなを）

一 大垣北高時代から皇室に関心を寄せる

- 1 昭32年（一九五七）4月（高一・15歳）郷里近くの谷汲山で全国植樹祭の行幸啓を奉迎
- 2 昭33年8月（高二・16歳）稲川誠一教諭に勧められ「日本学協会」の研修会に初参加↓北高で「歴史同好会」設立
- 3 昭34年4月（高三・17歳）皇太子明仁親王御成婚、妃殿下とのパレード拝見↓昭35年2月、浩宮徳仁親王御誕生

二 名古屋大学時代から平安時代史の研究に取り組む

- 4 昭35年（一九六〇）4月（大一・18歳）名大に自宅から通学、教養部指導教官佐々木隆美教授（日本文化史）
- 5 昭37年4月（大三・20歳）文学部国史学科に進学、主任中村榮孝教授『日鮮関係史の研究』（↓学士院恩賜賞）受講
- 6 昭39年1月（大四・22歳）学部卒業論文「平安貴族」三善清行とその時代」（指導教官弥永貞三助教授）提出
- 7 昭41年1月（修二・24歳）大学院文学研究科修士論文「奈良平安時代」令制国司の変質過程」（同右）提出

三 皇學館大学時代から神道祭祀にも興味を持つ

- 8 昭41年（一九六六）4月皇學館大学文学部助手に着任。伊勢神宮に月例参拝、式年遷宮の準備諸祭儀を拝見
- 9 昭44年4月（27歳）専任講師昇任。菊池京子（京都女子大学修士卒「〈所〉の成立と展開」と結婚（↓斎王和歌文学の史的研究）
- 10 昭45年10月（28歳）東大名誉教授坂本太郎博士の推薦により『三善清行』（吉川弘文館人物叢書）出版
- 11 昭47年4月（30歳）助教授に昇任。7月、父（昭17年召集・兵長）の戦没地ソロモン群島ムンダ慰霊（刻名の飯盒発見）

- 12 昭48年10月（31歳）第60回式年遷宮奉拝。12月『伊勢の神宮』（新人物往来社）出版（↓平5年4月、講談社学術文庫）

四 文部省教科書調査官時代に元号と儀式書の調査

- 13 昭50年（一九七五）4月（33歳）文部省初等中等教育局教科書検定調査官（社会科日本史担当）に着任
- 14 昭52年3月（35歳）『日本の年号』（雄山閣）出版。元号法制化準備に協力↓昭54年7月「元号法」成立
- 15 昭53年8月（36歳）学友数名と『国書逸文研究』創刊（↓30号）↓平7年3月『新訂増補国書逸文』編著（国書刊行会）
- 16 昭55年1月（38歳）京都御所東山御文庫本『撰集秘記』校註・解説（国書刊行会）出版

五 京都産業大学時代に宮廷儀式書研究の集大成と出版

- 17 昭56年（一九八一）4月（39歳）京都産業大学教養部教授に着任↓昭和59年6月（42歳）、法学部に移籍
- 18 昭57年4月（40歳）『三代御記逸文集成』編著（国書刊行会）出版↓東京と京都で「三代御記逸文研究会」（↓現在）
- 19 昭60年12月（43歳）『平安朝儀式書成立史の研究』（学位論文、国書刊行会）出版
- 20 昭61年3月（44歳）『日本の祝祭日』（PHP新書）↓平15年8月『国民の祝日』の由来がわかる小事典』（同上）出版
- 21 〃 9月、慶應義塾大学より法学博士（日本法制史）授与（主査利光三津夫教授）
- 22 昭63年3月（46歳）『年号の歴史―元号制度の史的研究―』（雄山閣）出版↓平成元年4月、増補版（同上）出版

六

モラロジ―研究所時代に皇室関係資料文庫の活用

- 23 平元年（一九八九） 1月（47歳）御代替り。9月、和田英松博士『新訂建武年中行事註解』（講談社学術文庫）出版
- 24 平2年7月（48歳）『皇位継承儀式宝典』編監（新人物往来社）。8月「即位儀礼に見る宮廷文化展」編監（共同通信社）
- 25 平3年1月（49歳）徳川光圀編『礼儀類典』マイクログフィルム版別冊解説書（雄松堂）出版
- 26 平4年6月（50歳）藤原公任撰『北山抄』（翻刻・校注・解題）（神道大系編纂会）出版
- 27 平5年7月（51歳）源高明撰『西宮記』（翻刻・校注・解題）（同右）出版
- 28 平7年4月（53歳）京都産業大学創立三十年に開設の日本文化研究所・初代所長（〜平16年3月）
- 29 平8年1月（54歳）『京都の三大祭』（角川選書）出版↓平成26年6月、角川ソフィア文庫
- 30 平10年10月（56歳）『皇位継承』（高橋紘氏との共著、文春新書第一冊）出版
- 31 平13年2月（59歳）『宮廷儀式書成立史の再検討』（国書刊行会）出版
- 32 平13年10月（60歳）『大正大礼記録』解説（臨川書店）↓令元年8月、同「絵図・写真資料集」解説（勉誠出版）
- 33 平14年12月（60歳）敬宮愛子内親王御誕生。『天皇の人生儀礼』（小学館文庫）出版
- 34 平14年2月（60歳）『菅原道真の実像』（臨川書店選書）出版。平15年2月、菅公千百年祭
- 35 平18年1月（64歳）『皇位継承のあり方―母系・女性天皇は可能か―』（PHP新書）出版
- 36 平21年3月（67歳）『歴代天皇の実像』（モラロジ―研究所）出版
- 37 平21年3月（67歳）『天皇の「まつりごと」』（NHK出版生活人新書）出版
- 38 平24年3月（70歳）『皇室事典』（高橋紘・米田雄介両氏と共編、角川学芸出版）↓令和元年11月「令和版」（角川書店）
- 39 平24年3月（70歳）『皇室に学ぶ德育』（モラロジ―研究所）出版。京都産業大学名誉教授。
- 40 平24年（二〇一二）4月 公益財団法人モラロジ―研究所教授・麗澤大学客員教授・皇學館大學特別招聘教授
- 41 平26年1月（72歳）『皇室典範と女性宮家―なぜ皇族女子の宮家が必要か―』（勉誠出版）
- 42 平26年1月（72歳）『日本年号史大事典』編著（雄山閣）出版
- 43 平29年1月（75歳）『象徴天皇“高齢讓位”の真相』（ベスト新書）出版
- 44 平30年3月（76歳）『元号―年号から読み解く日本史―』（久禮旦雄・吉野健一両氏と共著、文春新書）出版
- 45 平30年3月（76歳）『元号―年号から読み解く日本史―』（久禮旦雄・吉野健一両氏と共著、文春新書）出版
- 46 平30年4月（76歳）『皇位継承の歴史と廣池千九郎』（皇室関係資料文庫研究員の共著、モラロジ―研究所）
- 47 平30年4月（76歳）『近代大礼関係の基本史料集成』編著（国書刊行会）出版
- 48 平30年9月（76歳）『京都の御大礼―即位礼・大嘗祭と宮廷文化のみやび』編監（思文閣出版）
- 49 平30年12月（77歳）『三善清行の遺文集成』（方丈堂出版）、善相公千百年祭（京都岡崎神社）
- 50 平30年12月（77歳）御代替り。『元号読本』（久禮旦雄・吉野健一両氏と共著、創元社）出版
- 51 平30年12月（77歳）『光格天皇関係絵図集成』編著（国書刊行会）出版予定
- ※ 令2年11月（78歳）「宮廷文化シアター」（仮称、京都御苑内の閑院宮邸跡）コーナー開設協議中

令和元年（AD二〇一九）十一月二十三日（土）「日本学賞」受賞卓話 学士会館

「年号（元号）文化の来歴と意義」（参考資料）

（京都産業大学名誉教授・モラロジー研究所教授） 所 功

一 命名（ネーミング）の意義

- 1 十一月九日 御即位奉祝国民祭典で松本白鷗祝辞「襲名の名は命を襲ぐこと」
- 2 内廷皇族「命名の儀」（幼称と御名）
ex 「浩宮」「徳仁（なるひと）」：『中庸』第三章「浩浩たる其の天……聡明聖知にして天徳に達する者……」
ex 「紀宮」「清子（さやか）」：『万葉集』卷六「（元正女帝）紀伊国に幸せる時に、山部宿祢赤人の作る歌……清き渚に……」

二 漢字（表意文字）文化圏の年号

- 3 中華帝国（王朝）の年号……漢の武帝即位翌年「建元元年」（BC一四〇）→清の宣統三年辛亥（AD一九一一）
- 4 周辺諸国（王朝）の年号（ほとんど中国年号を奉じて公用）
ex 新羅……法興王二十三年「建元」（五三六）→真徳女王元年「太和」（六四七）、唐帝叱責。三年後から「中国の永徽年号」順奉
ex 越南……丁朝万勝王「太平」（九七〇）→阮朝保大帝「保大」（一九二六） ※嘉隆帝（一八〇二）から一世一元

三 日本における私年号と公年号の初見

（聖徳太子生母）

- 5 聖徳太子の讃仰……「法興」（五九一→六二二）法隆寺釈迦三尊造像銘「法興元卅一年歳次辛巳十二月、鬼前太后崩……」
- 6 改新政治の象徴……「大化」（六四五→六五〇）『日本書紀』「天豊財重日足姫（皇極）天皇四年（乙巳）を改め大化元年とす」
※用例、ex 宇治橋断碑「道登、出自山尻（山背）恵満之家、大化二年丙午之歳（六四六）、構立此橋、濟度人畜……」

四 日本の律令制国家の「年号」公用

- 7 大宝令（七〇一）儀制令の逸文「凡公文応記年者、皆用年号」（『唐令拾遺』儀制令に同趣規定は無い）
※「古記」（大宝令の注釈書）「用年号、謂、大宝記而辛丑不注之類也」 ex 藤原京出土木簡「太寶式年壬寅」

五 「辛酉革命」改元の特例と初例

- 8 「天応」改元（七八一）……「続日本紀」天応元年（辛酉）春正月辛酉朔条「詔曰……有司奏、伊勢斎宮所見美雲、正合大瑞。彼神宮者国家所鎮、自天応之……今者元正告曆、吉日初開……。改元曰天応……」
- 9 「延喜」改元（九〇一）……文章博士三善清行『革命勘文』昌泰四年（九〇一）2月22日上奏「請改元応天道之状／合証拠四条／一、今年当大変革命年事／一、去年秋彗星見事／一、去年秋以来老人星見事／一、……」

※ 「辛酉革命改元」……九〇一〜幕末「文久」改元（一八六一）
「甲子革命改元」……九六四〜幕末「元治」改元（一八六四）

六 一世一元（一代一号）の提唱と実現

10 中井竹山『草茅危言』天明八年（一七八八）「明・清（一三六八〜一六四七）の法に従ひ、一代一号と定めたき御事なり……」
（藤田幽谷『建元論』も同趣）

※ 岩倉具視の慶応四年（一八六八）8月25日書状「改元之義……御大礼後直ニ被行候力……御一代御一号之制ニ被決定候テハ如何」
11 「明治」改元（一八六八）詔書「自今以後、一世一元以為永式」
行政官布告「今より御一代御一号に定められ候」

七 一世一元の法制と再法制化

12 明治二十二年（一八八九）制定『皇室典範』第十二条

「践祚ノ後、元号ヲ建テ、一世ノ間ニ改メザルコト、明治元年ノ定制ニ従フ」
※ 同四十二年（一九〇九）公布『登極令』第二条

「天皇践祚ノ後ハ直ニ元号ヲ改ム。元号ハ枢密顧問ニ諮詢シタル後、之ヲ勅定ス」
13 昭和五十四年（一九七九）公布『元号法』
「1元号は、政令により定める。／2元号は、皇位の継承があつた場合に限り改める」

（アンビグラム 野村一晟氏作）

八 年号Ⅱ元号の出典（漢籍・国書）

14 「平成」改元（一九八九）……『史記』五帝本紀「父義、母慈、兄友、弟恭、子孝、内平外成」
『書経』大禹謨「地平天成、六府三事允治、万世永頼」

15 「令和」改元（二〇一九）……『万葉集』卷五「梅花歌三十二首并序」
天平二年（七三〇）正月十三日、萃于帥老（大宰府長官大伴旅人）之宅、申宴会也。
于時初春令月、氣淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薰珮後之香……」



九 文化と文明の長所互助活用

16 文化 (culture) ……人間的・自然的・地域的な知恵により生み出されたもの。ex 漢字・元号

17 文明 (civilization) ……機械的・人工的・普遍的な知識により作り出されたもの。ex 数字・西暦

※ 『日本書紀』推古女帝十二年（六〇四）四月戊辰条

「（聖徳）皇太子親肇作憲法十七条。一曰、以和為貴、無忤為宗……上和下睦……何事不成」（↓新元号の試案「和成」）